

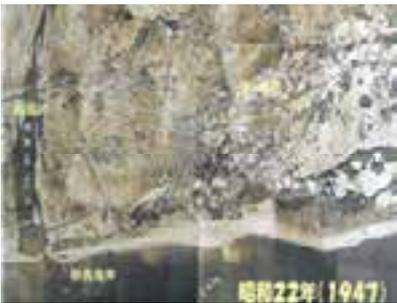
## 第15回 あの森を訪ねて

### 柳島の海岸林と善行者の碑

#### はじめに

ゆるい弧を描く湘南海岸をふちどるように延長約11kmの細い緑の帯がある。クロマツを中心とする松林。

今から70年前の相模川河口や海岸線が写る航空写真をみると、湘南道路（現国道134号線）の海側は白一色だが、柳島海岸の緑地だけが黒い帯となって見える。



以前、海岸林の歴史や整備の概要を「飛砂防備保安林＝湘南海岸の松林」として紹介された。

今回は、浜の歴史や見どころなどもまじえながら、柳島の海岸林を実際に訪ねることにした。

コースは、JR茅ヶ崎駅～バス一バス停「浜見平団地」～柳島記念会館～柳島キャンプ場～しおさいの森～善行者の碑～南湖院記念太陽の郷庭園～サイクリングロード～茅ヶ崎漁港～国木田独歩の碑～高砂緑地～茅ヶ崎駅 とした。

距離は約6.5km。

#### 白砂青松

海に囲まれた日本では、白い砂浜と緑の松林は「白砂青松」と形

容され、美しい景色の一つとして親しまれている。

それらの松林は大部分が人の手で植えられた。長い年月と困難を乗り越えて造られた海岸林である。

湘南海岸の松林も例外ではない。**柳島湊**

浜見平団地でバスを降りて南へ10分ほど歩くと「柳島記念会館」。

柳島の歴史などを紹介する展示がある。かつて柳島は、相模川河口の湊として栄えた。400石舟も備えて、上流の丹沢や津久井方面からの木材や薪炭などを江戸方面に運ぶ物資流通の要所であった。

今は、大正12年（1923）の関東大震災で土地が隆起したため、その面影はない。

#### 鉄砲場

海岸一帯は軍事利用と深くかかわってきた。まず、享保13年（1728）に江戸幕府の相州砲術訓練場がつくられ、明治維新までつづいた。「鉄砲場」とよばれる大砲の射撃練習場だった。記念会



館に絵図がある。その名残として柳島から辻堂にかけての道路は「鉄砲道」とよばれている。

明治になると横須賀海軍の砲術試験場と陸戦演習場となった。

太平洋戦争末期、連合軍は、相模湾から上陸し東京に攻め込む「コロネット作戦」を立てていた。

実行されなかったが、日本のノルマンディーになる所であった。

戦後、辻堂海岸は連合軍に接收され、その後アメリカ軍の演習場となり、昭和34年になって返還された。

#### 海岸林の造成

海岸林の造成は大正時代から始められた。昭和3年からは、御大典記念事業として平塚市から藤沢市片瀬までクロマツが植林された。

その後、台風被害で壊滅的被害をうけることもあったが、再度営々と植林が続けられた。

#### 森へ入る

記念館を出てキャンプ場へ行く。



キャンプ場の部分はきれいに下床植生が刈り取られ、見通しの良い松林となっている。

中に宿泊棟やテントを張るスペースなどもある。松の木は海風に吹かれて同じような角度で傾いている。切株があるので年輪を数えてみると、はっきりしない部分もあるが50年ほどたっている。

昭和40年代の植栽ということになり、先ほどの航空写真と年代がずれているが、当時の松がそのままあるのではないようだ。

キャンプ場から海岸にそった遊歩道に出る。海と砂浜と林の関係が良くわかる。

海から強い風が吹いている。

この付近は海岸の浸食が激しい所。上流におけるダムの建設や土地利用の変化により、浜をつくる土砂が川から供給されなくなり、海岸線が後退するようになった。

そのため養浜工事が行われている。養浜のための土砂は相模川上流のダムで浚渫した堆積土を使用しているとのこと。現代、土砂は川の流れにのってではなく、トラックに乗って運ばれる。

林の方へ眼をやると砂浜から松林の梢に向かってトベラやマサキ、ウバメガシ等の林縁木の梢がきれいに傾斜している(表題写真)。

湘南海岸の特徴の一つは汀線と樹林地の距離が非常に狭く、砂粒も砂というより粉といった方がいいほどで、風に乗る砂が樹木の新芽を吹き飛ばすために伸長できないことが林の造成を難しくしている原因の一つである。それで、防風ネットで囲い生育を助けている。

林は保安林に指定されており、その名もずばり飛砂防備保安林。

遊歩道の途中から「しおさいの森」にはいる。この森は、海岸林の中に歩道や休憩施設をもうけ、森林浴をしながら林の効用等を理解してもらうために設置された。

林の中にはいると海岸で吹いていた強い風が消えているので驚く。

林の風下への防風効果は、樹高の20倍以上の距離におよぶとか。

植えられたクロマツの木は、真っ直ぐなもの一本もなく、傾き、曲り、よじれ、枝は不自然な形だ。

その姿は生育環境の厳しさを表わしていると同時に、木の生命力の逞しさをも感じさせてくれる。



クロマツの胸高直径はおおむね30cm、樹高は15m位ある。

下層植生にはアカメガシワ、エノキ、マサキ、クワ、トベラなどの広葉樹がそれなりの豊かさで生育しており、長い年月をかけて砂地の上に広葉樹が育つことができるだけの土壌ができていようだ。

### 善行者の碑

森を出て国道を江の島方面に少し進み右手の松林に入る。3つの記念碑がある。右端が昭和11年に全線開通した「湘南道路」(現国道134号線)の碑。左端が「相州砲術場と柳島湊跡」の碑。そして、その間に「善行者」の碑がある。

碑の主は柳島の内藤亀太郎氏。

碑文には『君は資性剛直にして寸蒙も不正を許さず、終始之を生活の真情としていました。偶々市内県有林の保護を命じられるや、終戦来頻発する盗伐監視に挺身して、海岸の美観を保ち国土の保全に努力し昭和23年3月1日、27年5月、2回に亘って知事の表彰を受けま

した。誠に徳のいたしたるもので、ここに碑を建てて君の功績を後世までたてるものであります。

昭和28年



3月31日』とある。

終戦後、松の盗伐が行われた。がキャンプ場周辺の松林は、善行者の献身的努力で守られ残った。

それが冒頭の空中写真の黒い帯になっている所だろう。

### 南湖院

海岸林に沿って江の島方面へ進み、結核療養所としては東洋一といわれた「南湖院」の跡地に寄ってみる。明治32年(1899)に高田耕庵により開院された。

「武蔵野」の作者として有名な国木田独歩が入院し、ここで亡くなったことで全国的に知られることになった施設である。

現在は太陽の郷の一部に庭園や病舎が残され一般に公開されている。往時の雰囲気が少し味わえる。

(火、水、年末年始は非公開)



海岸林と海のためのサイクリングロードを歩く。砂だまりが所々にできて道をふさぐ。林の切れる所では砂が国道まで達している。

### 高砂緑地

茅ヶ崎漁港を過ぎ運動公園のところから茅ヶ崎駅にむかう。

運動公園の傍らに「国木田独歩と茅ヶ崎」の碑がある。

途中の高砂緑地は、かつて川上音二郎の別荘があった所で、太さ50cm位のクロマツの林が残る。

今日は森の働きを体感できた。

善行者の碑の主や、その行為をたたえて碑を建てた人達と意思を一つにした一日だった。

2018、4 瀧澤